

開催日時	平成 29 年 7 月 27 日（木）	会 場	（一社）神奈川県建築士事務所協会 2 階会議室		
出席者 （○）	委 員 長：○山口 英生 副 委 員 長：○岩田 崇 委 員：×永島 優子 ○小山美智恵 ○青木 建 ○宮寺 透雄 ○近藤 敦司 ○小林 幸一 書記：山口委員長				

各委員から多様なご発言がありましたが、主旨から3つに分けて記載しました。

① 当専門委員会が置かれている立場や協会の将来像など

- ・ 高齢廃業、後継ぎ無しなど当面は数が減っていく一方の業界環境のなか、神事協に入るメリットとは何なのか、を明らかにしていかなければいけない。
- ・ 何らかのメリットがあることで会員数が伸びれば、新設事務所の足かせとなる会費自体を下げる検討もできるというプラススパイラル成長が期待できる。
- ・ 委員よりも更に若手（20代30代）になると、直接的なメリットを感じないと消費行動（入会）に結びつかないと思われるので、当面何を直接メリットとして提供するかを考える必要があるかも。
- ・ 決められた期間で何かを解決するのではなく、様々なテーマを出し合って、フレキシブルに優先順位付けながら検討していく。「未来の」という意味合いは、委員の任期2年の間にその場限りでテーマ解決するのではなく、様々なアイデアを出し合い中長期的なビジョンを定めていく専門委員会である。
- ・ 神奈川会も財政的には厳しい状態が続いており、全国的にはもっと厳しい単位会もあるなか、協会の存在意義は何なのか、これから全国規模で取り組んでいかなければならない。
- ・ 色々な要望があるが、それを実際に実践するのは当委員会ではない。出てきたアイデアを、協会の中でどう組織的にやっていくか、そのためには何が必要なのか、などのビジョンをまとめあげていく。

② 協会に属するメリットって何なのか、各委員が思うこと、そのほか雑感など

- ・行政と連携し活動をしていく中で、一般市民からの信用を得られるのは大きい。
- ・不動産ストックビジネスに移行していくなか、難しい確認申請が増えているが、事務所協会所属ということで行政担当者から信頼が得られれば、建設的に議論を進めやすい。
- ・「まちづくり」の主導者はこれまで不動産業界が担ってきたが、ストック時代になってくると基準法・関係条例的な知識が多く求められる。また、営利的な不動産業界よりも建築士事務所は中庸の立場として活動していきやすい。事務所協会後援みたいな形で活動できれば、本当の意味での「まちづくり」をしてくれる団体、との貢献アピールになり、将来の仕事への繋がりが期待できる。
- ・昨今では建築士は設計監理だけでなく、さまざまな業務に携わるようになってきている。しかしまだ建築士報酬としてシステムづくりがされていないものも多い。それらをピックアップし、組織的に収益に結び付けていく仕組みづくりも当専門委員会で揉んでいきたい。
- ・自社は商店街の端に位置する事務所で、表向きは金物店も兼ねている。町医者的な立ち位置で商店街の活性化も含めてやっていきたい。SNSや情報ソースの多様化で、郊外の商店街の再生に成功している事例が増えてきている。営利不動産的ではない「まちづくり」をしたい。
- ・ビルや住宅の改修もそうだが、一般コミュニティにおいても建築士の知識を求められることが多い。そこを契機に何か仕事に繋げていきたい。
- ・事務所協会では経営サポートもスタンスに含まれるので、他団体とは違い営利的な話もしていきたい。

③ ホームページやSNSなどのコンテンツについて

- ・ ホームページなどのコンテンツについて、神事協内で仕事を融通し合えるような仕組みがあると良い。昔は建築掲示板を閲覧して仕事を探したりした。
- ・ これまではコストリスクの点からホームページやデータベースの企画がすすまないことが多かった。今はSNSなど様々な既存ネットインフラがあるので、それを活用してなるべくコストを掛けずにスタートし、活用していく中でコストを掛ける必要が出たらそういう提案をする、というやり方も良い。
- ・ 誰でもが見れるようにすると、アップする写真や発言などに問題が発生する場合があるので、限定的なメンバーによるコミュニティツールとしてSNSグループなどを使うと良い。

④ 今後の進め方について

- ・ 次回 8 月に今日の内容を踏まえて各委員からそれぞれアイデア出しをする。それらの中から、まとめるなり包括するなりした委員会活動方針を決定する。
- ・ 次回は、8 月 23 日（水）15 時～17 時 神事協 地下会議室

以上

平成 29 年度 第 1 回 一般社団法人神奈川県建築士事務所協会未来に繋げる事業専門委員会 議事録			
開催日時	平成 29 年 8 月 23 日（水）	会 場	（一社）神奈川県建築士事務所協会 地下会議室
出席者 （○）	担当副会長：○大和田 優 委 員 長：○山口 英生 副 委 員 長：○岩田 崇 委 員：○永島 優子 ○小山美智恵 ○青木 建 		

平成 29 年度 第 1 回 一般社団法人神奈川県建築士事務所協会未来に繋げる事業専門委員会 議事録			
開催日時	平成 29 年 8 月 23 日 (水)	会 場	(一社) 神奈川県建築士事務所協会 地下会議室
出席者 (○)	担当副会長：○大和田 優 委 員 長：○山口 英生 副 委 員 長：○岩田 崇 委 員：○永島 優子 ○小山美智恵 ○青木 建 		

平成 29 年度 第 2 回 一般社団法人神奈川県建築士事務所協会 未来に繋げる事業専門委員会 議事録																			
開催日時	平成 29 年 9 月 21 日 (木)	会 場	(一社) 神奈川県建築士事務所協会 2 階会議室																
出席者 (○)	担当副会長：○大和田 優 書記：山口委員長 委 員 長：○山口 英生 副 委 員 長：○岩田 崇 委 員：○永島 優子 ○小山美智恵 ○青木 建 ○宮寺 透雄 ○近藤 敦司 ○小林 幸一 ○杉本 勝郎 ×鈴木 武昭 オブザーバー：○安藤 彰彦 (賛助会会長) ㈱都市計画地盤研究会 ○寺越健太郎 (賛助会理事) 日 本 ERI(株)																		
(1) 基礎アンケートの取組みの流れ確認 ◇ 全体の流れを確認した。 ・配布は、PDF 版と Excel 版を会員全員にメール配信。 ・回収は、ブロック単位で 50%以上回収し、そのあとブロックから事務局へメールで提出。 その際、PDF 版の物はブロックにてエクセルデータへ変換入力し、全てエクセルデータで提出する。 (2) 基礎アンケートの設問内容に関する事項 ◇ 各委員より、提出した設問の主旨説明を行った。 ◇ 全部の設問を網羅するものをつくる。⇒ 山口担務 なお、小林委員の琥珀色の設問は、コーヒーブレイクのアンケートに差し込む。 回答しやすいように全体を整える ⇒ 杉本委員担務 各設問の想定問答 (Q & A) を作る ⇒ 小山委員担務 <今後のスケジュール> <table><tr><td>10 月</td><td>11 月</td><td>12 月</td><td>12/15</td></tr><tr><td>――― ―――― 中旬 ―――― 下旬 ―――― 中旬 ―――― 下旬 ―――― ―――</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>案作成</td><td>予告</td><td>配布</td><td>ブロック集計</td></tr><tr><td></td><td></td><td>提出</td><td>分析 報告</td></tr></table> (以下想定日時) 10/3 アンケート案を委員に配信 10/15 委員から追加訂正返信 10/16 各ブロックに予告 10/30 アンケート配布 11/15 ブロックでアンケート責任回収 11/27 ブロックから回答データ提出 ～ 生データ分析 12/15 統括委員長会で一次報告 (3) 賛助会員へのアンケートに関する事項 (例：業務内容の細項目化のための設問) ◇ 基礎アンケートについての設問を、賛助会オブザーバー様から作成提出していただき、アンケートに差し込む。 ◇ 賛助会員へのアンケートについては次回以降に協議 (4) その他 ◇ 予算については、次回以降に協議。 ◇ 永島委員より、「神事協会員派遣の事業化」について提案があった。別紙参照 改修案件の増加に伴い、専門性の高い会員を講師派遣するニーズが高まりそう。 実施に向けて雛形を作り、ブロックに提案する。次回以降に詳細を検討していく。				10 月	11 月	12 月	12/15	――― ―――― 中旬 ―――― 下旬 ―――― 中旬 ―――― 下旬 ―――― ―――				案作成	予告	配布	ブロック集計			提出	分析 報告
10 月	11 月	12 月	12/15																
――― ―――― 中旬 ―――― 下旬 ―――― 中旬 ―――― 下旬 ―――― ―――																			
案作成	予告	配布	ブロック集計																
		提出	分析 報告																

平成 29 年度 第 3 回 一般社団法人神奈川県建築士事務所協会未来に繋げる事業専門委員会 議事録			
開催日時	平成 29 年 12 月 5 日 (火)	会 場	(一社) 神奈川県建築士事務所協会 2 階会議室
出席者 (○)	担当副会長：○大和田 優 委 員 長：○山口 英生 副 委 員 長：○岩田 崇 委 員：○永島 優子 ○小山美智恵 ○青木 建 ○宮寺 透雄 ○近藤 敦司 ○小林 幸一 ○杉本 勝郎 ○鈴木 武昭 オブザーバー：○安藤 彰彦 (賛助会会長) ㈱都市計画地盤研究会 ×寺越健太郎 (賛助会理事) 日 本 ERI(株)		
	書記：山口		
1 あいさつ 大和田担当副会長より挨拶、横浜支部から鈴木さん参加挨拶			
2 報告 平成 30 年度予算案提出しました (資料 1) → 総財務委員会からの意見待ち			
3 議題			
(1) 神事協会員への基礎アンケートに関する事項 (資料 2 ～ 7)			
(ア)12/15 中間報告会について			
企画委員会でトータル 10 分、3 専門委員会で各 3 分程度のイメージ。 発表するだけでなく意見交換をする構成で報告会は進めたい。			
結果的に集まった数が少ないので、分析しても比率的には少数意見となってしまう。 そこで、「支部の在り方とは?」、「数が集まらない問題点から考える?」報告内容としたい。 →個別の支部結果に言及するのは良くないが、ブロックの再編も視野に入れるべきではないか?? 支部として、結果数字以上のポテンシャルはあると感じている (川崎、横浜) 発表について			
・大和田副会長にて、資料作成、発表する。 →当アンケートの目的、資料 7 の結果報告、次年度へかけての進め方、等			
・回答率の低かった支部の事情を報告会前に支部長に確認するようにする。			
(イ)集計について			
・早く支部に水平展開するべき。回答してくれた方のため支部集計だけでも早く返したい。			
・支部長および事務局に集計手伝いはお願いできないので、以下の方法とする。			
i. 数字だけの回答欄は単純集計作業、文字回答は集計者が適宜判断する。			
ii. 手書き PDFなどをエクセルの数字データ変換入力、全回答にナンバーを振って、 未来委員で均等分配し作業、ビッグデータ化する。			
iii. パイロット的にどれかの支部で試し集計分析してみるのも必要。			
(ウ)分析について			
いっぺんに分析するのではなく、小分けにして継続的に分析、会報上で公開していけば?			
→ひとつの設問ずつ相関関係で議論を生むような投げかけ方 ↑ 広報委も興味高い			
(2) 神事協ホームページに関する事項			
(ア)トップページの変更			
HP作成会社の独自構造のため安価で簡単に変更することはできないので、別会社で検討スタート。 スマホ対応が欲しい、などコンテンツの抜本的な改造が必要。 ↑ 組織改編で止ってる 方針・予算を決めて、どこの委員会で対応するのか、総財務、広報? 未来の中にHP部会を作る? → 根源的な問題として、コンテンツの元となる意見を集約する仕組みが会の中にあるか?			
(イ)現ホームページの講習会情報表示について			
トピックスの講習会は、必要な場合、事務局が手作業で上位に表示する事は可能。			
(3) その他			
会員向けの業務紹介 (永島さん (業務支援委員長) からのご提案)			
・専門委員会の外部へのアピール、相談対応・出張セミナー対応、デューデリ業務対応、 他団体とのマッチングなど、業務紹介可能性のある分野をどう扱うか? (当日配布資料参照)			
・法務上の視点で弁護士等の専門家の意見も聞いておきたい。			
次回日程は、調整さんメールで決定する。概ね、2月19日 (月) の週のどこかとする。			

平成 29 年度 第 4 回 一般社団法人神奈川県建築士事務所協会未来に繋げる事業専門委員会 議事録			
開催日時	平成 30 年 2 月 23 日 (金)	会 場	(一社) 神奈川県建築士事務所協会 2 階会議室
出席者 (○)	担当副会長：○大和田 優 委 員 長：×山口 英生 副 委 員 長：○岩田 崇 委 員：×永島 優子 ○小山美智恵 ○青木 建 ×宮寺 透雄 ×近藤 敦司 ×小林 幸一 ○杉本 勝郎 ○鈴木 武昭 オブザーバー：○安藤 彰彦 (賛助会会長) ㈱都市計画地盤研究会 ○田村 修 (賛助会副会長) 横浜三協(株)		
	書記：岩田		
1 あいさつ 大和田担当副会長より挨拶			
2 議題			
(1) 神事協会員への基礎アンケートに関して			
データが出揃い円グラフにまとめた報告書を分析、意見交換を行った。 各ブロック及び支部によって傾向が違うが会員の意見より本会としての 対応を検討する。			
先ずは会員が神事協に期待することが何かを読み解く。 神事協に所属するメリットは何か。仕事獲得と言う面を見れば 神事協の名簿に会社の名前が記載されるだけでは仕事獲得の効果 は薄い。			
a)インスペクション b)木造耐震			
新たな会員拡大に向けて有効な手段とはなにか。 仕事獲得のための実務的なノウハウを講習会形式で広めてはどうか。			
賛助会の有り方について。 賛助会においても所属することによる目に見えるメリットが必要では ないか。賛助会員の増強も難しい。また賛助会が本会と支部によっては 存在しているが統一すべきである (田村氏)			
次回以降、基礎アンケートのデータを拾い出し方向性、ストーリー作りを行う。			
(2) 神事協ホームページに関する事項			
トップページの変更 HP作成会社の独自構造のため安価で簡単に変更することはできない。 方針・予算を決めて、どこで委員会に対応するのか 未来に繋げる委員会内でもHPについて継続的に議論を行う。			
(3) その他			
次回日程は、3月29日 (木)			
・ ホームページ検討打合せ 12:30～15:30			
・ 未来に繋げる事業専門委員会 15:30～17:30			

平成 29 年度 第 5 回 一般社団法人神奈川県建築士事務所協会未来に繋げる事業専門委員会 議事録			
開催日時	平成 30 年 3 月 29 日 (木)	会 場	(一社) 神奈川県建築士事務所協会 2 階会議室
出席者 (○)	担当副会長：×大和田 優 委 員 長：○山口 英生 副委員長：×岩田 崇 委 員 員：×永島 優子 ○小山美智恵 ○青木 建 ○宮寺 透雄 ○近藤 敦司 ○小林 幸一 ×杉本 勝郎 ○鈴木 武昭 オブザーバー：○安藤 彰彦 (賛助会会長) ㈱都市計画地盤研究会 ○寺越健太郎 (賛助会理事) 日 本 ERI(株)		
	書記：山口		
1 あいさつ 委員長より挨拶			
2 報告 統括委員長会、理事会等での委員会活動報告内容の伝達。今後の全体スケジュールの説明。			
3 議題 (1) 神事協会員への基礎アンケートに関する事項 (集計・分析方法等) (ア)総会報告会について 前回 12/15 がアンケート結果の速報報告、今回 6/1 は各回答からの分析報告、そして次回 (今年末) の報告会で次年度以降の長期方向性・戦略の提案などを行うイメージです。すめる。 前回委員会までに回答は集計済み、今回と次回の委員会では回答内容についてフリートーキングを行い、分析方向を探っていく。 (イ)分析について (フリートーク) ・ Q04：兼業率が高いので今後専業者と同じようにフォローしていく ・ Q06：設備事務所が極端に少ない、設備士業界団体との連携を考えるか？ ・ Q07：所長年代は意外と均等分布 ・ Q11・12：所員 10 名以下、年間売上 3000 万未満の比較的小規模な事務所が回答者大半を占めた ・ Q13：回答者の中で公共事業はごく一部の事務所しか担務していない状況である。どのように取り組めばいいのか分からない事務所が多いのでは？ (業務マッチングの可能性あり) ・ Q25・27：スポーツ大会・地引網は担当支部の負担が大きい割に、参加経験が低く、今後の期待感も低い結果となった。 ➢ 違うやり方の模索 (委員会合同企画など) が必要か？ ➢ 費用対効果を追い過ぎて、事業をやることだけが目的になっていないか？ ➢ 本来の参加しやすい企画を時代に合わせて考え直していくべきか？ ・ Q35・37：入会メリットとして「業務マッチング」の仕組みづくりが必要では？ ➢ 協会としての紹介責任・受発注立場の上下関係問題など、単に業務マッチングを行う前に検討すべきソフト点がたくさんある。 ➢ 未来への提言なのだから、若い世代の事務所の真意を徹底的に取り纏めるべき (30 代 9 %、40 代 2 1 % の回答を抽出し詳細分析する。 → 4 月中イメージで各委員担務分を再度上記集計して、次委員会で再分析する ➢ 違うマッチングから人として信頼関係を築き、業務マッチングに発展できないか？ 例) 楽しい活動＝協会内に各種同好会・サークルをつくる → 所長・所員・賛助会も参加 → 事務所登録時に入部勧誘等 → 即退会しないよう部員でサポート → 若手の新加入モチベーションにもなる (青年委とコラボ) → 活動アピール (広報委とコラボ) ・ Q07・33：60 代 70 代 (4 3 %)、後継者探している (1 1 %)、の「仕事の継承マッチング」を担えないか？「継承プログラム」を用意して双方が参画するイメージ。 ・ Q41：賛助会で技術専門委員会とコラボ実績を作ってきている。次回は BELS 講習を横浜支部の協力で行う。今回の基準法改正講習会も賛助会内の民間審査機関に講師協力を頂く。 今後も各委員会と積極的な交流を図り、入会メリットとしての技術サポートと共に賛助会入会企業数も増やしていく。 ◎次年度用としてアイデアをフェーズに分け、育ちそうなものとそうでないものをすみ分けていく。			
(2) 神事協ホームページに関する事項 (ア)ワーキンググループから報告 なぜ進捗しないのか、ワーキンググループにて引き続き検討していく。			
次回日程は、調整さんメールで決定する。会場都合で 5 月 1 4 日(月)1 6 日(水)1 8 日(金)のどれかとする。			

平成 29～30 年度 第 6 回 (一社)神奈川県建築士事務所協会 未来に繋げる事業専門委員会 議事録			
開催日時	平成 30 年 5 月 16 日 (水)	会 場	(一社) 神奈川県建築士事務所協会 2 階会議室
出席者 (○)	担当副会長：○大和田 優 委 員 長：○山口 英生 副 委 員 長：×岩田 崇 委 員：○永島 優子 ○小山美智恵 ○青木 建 ○宮寺 透雄 ○近藤 敦司 ×小林 幸一 ×杉本 勝郎 ○鈴木 武昭 オブザーバー：○福田副会長 ×安藤 彰彦 (賛助会会長) ㈱都市計画地盤研究会 ○寺越健太郎 (賛助会理事) 日 本 ERI(株)		
	書記：山口		
1 あいさつ 副会長より挨拶			
2 報告 統括委員長会、理事会等での委員会活動報告内容の伝達。今後の全体スケジュールの説明。			
3 議題			
(1) 神事協会員への基礎アンケートに関する事項 (分析等、回答内容フリートーキング)			
(ア)総会報告会について			
各委員会 10 分程度。「未来に繋ぐ」をキーワードに 30 代 40 代の分析結果を報告する。			
(イ)業務支援委員会の別紙アンケート結果について			
委員会同士の横の連携を図る、講師派遣の事業化を模索、事務局から各委員会へ相談電話の振分け。			
(ウ)30 代 40 代の分析フリートーク			
30 代 40 代全体の 3 つの比率グラフを見比べて、特徴的な回答を拾い出す。(◎を総会報告か)			
・売上収入 1000 万未満が占めている			
・建賠保険は高くて入りにくい			
・神事協イベントへの参加、「企画に興味ない」率が結構ある			
・神事協役員への参加はまだ少ないが、気楽に参加できるような仕組みになっているか			
・公共事業の比率が低い、民間だけだと経営安定性が低いのでは			
・若い方は経営が厳しい中、一人親方的に頑張っていることが見える			
・横の繋がりをつくる仕組み⇒業務提供できる仕組みがあった方がいいのでは			
・廃業事務所から仕事の継承がうまくできないか			
・上から目線で業務を振られるよりは、自分で見つけられるような仕組みが欲しい			
◎新人がいきなりゼロスタートは難しい、少し修行できるような専門委員会をつくれなにか			
・「神事協」という看板効果が何らか欲しいのでは？			
・所員の指導育成方法が分からない、が高い比率			
・上の世代が考える「交流」と若い世代の考える「交流」にはかなり違いがありそう			
◎興味のある専門委員会に世代特色あり、「興味ある専門委員会が無い」が 30 代の 3 人に 1 人で、			
委員会の再編も必要では？支部ごとにも違いがあるはず			
・協力事務所が欲しい率が高い			
・建築関係団体が多く、差別化ができていないので、若いうちは単価の低い団体に入りがち			
◎神事協として団体差別化、「技術者として自己研鑽」「経営者としてビジネス展開」「団体としての			
交流や社会貢献」を 3 つの柱にしていけば？			
・若手は神事協のブランドに期待している？			
・会員向けの色々なジャンルの相談窓口があるといいのでは？でも匿名性がないと怖い？			
・専業と兼業で考え方は異なる			
・若手に対する賛助会フェアのやり方、周知方法			
◎『事務所の経営安定のための活動』⇔『神事協への加盟』			
・次年度用としてアイデアをフェーズ分け、育ちそうなものとそうでないものにすみ分けていく。			
◎クラブ活動の本格検討、神事協会議室の会員活用検討、若手は役職つけると活動しやすい			
・新入会員マニュアル検討。準会員制は日事連として難しい、他の形態か？			
◎加入メリットとして登録データを活用した経営サポート (定期講習、事務所更新方法、など)			
◎若手女性建築士事務所への取組み、建築士として独立開業を目指す人への取組み			
(2) 神事協ホームページに関する事項			
(ア)ワーキンググループから新ホームページを報告会で報告する			
次回日程は、8 月 6 日 (月) 15 時～17 時 神事協 2 階会議室			

平成 29・30 年度 第 7 回 一般社団法人神奈川県建築士事務所協会未来に繋げる事業専門委員会 議事録			
開催日時	平成 30 年 8 月 6 日 (月)	会 場	(一社) 神奈川県建築士事務所協会 2 階会議室
出席者 (○)	担当副会長：○大和田 優 書記：		
	委 員 長：○山口 英生 副 委 員 長：○岩田 崇 委 員：○永島 優子 ○小山美智恵 ○青木 建 ○宮寺 透雄 ○近藤 敦司 ○小林 幸一 ○杉本 勝郎 ○鈴木 武昭 オブザーバー：○長友 寛昌 (川崎支部) ○山口義弘 (相模原支部) ○安藤 彰彦 (賛助会会長) 横浜市計画地盤研究会 ○寺越健太郎 (賛助会理事) 日 本 ERI(株)		
1 あいさつ 大和田副会長より挨拶			
2 各種報告 ホームページWG、理事長会等での活動報告内容の伝達。			
3 議題			
(1) 神事協ホームページに関する事項： 鈴木委員よりWG 報告			
(2) 神事協会員への基礎アンケート： (3) で扱う			
(3) 組織改編等に関する事項			
「神事協における事業執行の現状および未来に繋げる観点からの業務執行体制に係る提案」			
⇒ 支部長会で説明済み、次回統括委員長会で説明予定 (正副会長会にてスケジュール設定)。			
⇒ 基礎アンケート意見等も踏まえて、組織の新たな枠組みを考え直す (たたき台を作成?)			
⇒ 理事会・総会承認を睨むと時間がない (スケジュールリング)			
○現状の問題点： 委員会委員数不足、執行部役員業務の偏り、ブロックによる格差、情報伝達が未整備、 役員改選でもいかに事業継続、会議の効率化、等			
○解決案：◎理事数・副会長数の増検討、本会推薦枠の新設 ⇒ 単位会ごとの会員数に比する執行部役員 数 (割合) を資料把握 (資料③)			
◎ブロックの再編 ⇒ 神奈川県下ブロックごとの会員数と理事数割合 → ブロック組成変更案 (横浜 2 分割、県西・中を合体等) (資料④⑤)			
◎定款・施行細則の改変案を把握 (資料①)			
○フリートーク：			
・役員の数・任期等：抜本的に中長期のビジョンを立て直し継続的に実行することを考えると、3 期 6 年 くらい務める常任理事的な役員が居て、任期をラップさせながら、ビジョンを継承担務していくイメ ージもありでは？→長期担務の固定弊害イメージがあり異論が出そう			
・いかに若手を選出していくか → 青年交流委員会との連携で意見を直に吸い上げ？			
・組織図 (委員会等) の再整理：常設委員会是一般社団法人として定款で定まっておき変えにくい。 名称ぐらいもう少し抽象的で大枠なものに変えて、専門委員会にフレキシブルに対応？ 専門委員会は理事会で決められる → お金を稼げる委員会とそうでない委員会を分けるべき？ → 一般会計枠と特別会計枠での配置整理が必要？ (住緑家、応急仮設など)			
・専門委員会と賛助会を積極的にリンクさせながらやってみるのもありでは？施行細則により専門委員 会は「会員」による構成とすれば、正会員＋賛助会員にすることができる。(今はオブザーバー参加)			
・未来に繋げる事業専門委員は定款を一度すべて読む必要がある。(ホームページに掲載されている)			
・クラブ活動について、組織図的には常設委員会にぶら下げない方がいい？			
・役員枠を増やしても、支部によっては人材の発掘方法が見えない			
・総会の報告会は誰でも参加して聞くことができるべき			
・常設・専門委員会は担当副会長が付いており、意見を直に吸い上げられるよう考えている。			
・統括委員長会は、理事会に事案を諮る前に、あらかじめ方向性なりを議論するための場である。			
・支部長会には議決権がない。そのため、支部の意見吸い上げをいかにに行いフィードバックするかが大事。 逆に本会での活動を支部でどう圧縮して伝えるかが難しい。時間的に全部を細かく伝えるのは難しい。			
・神奈川県として日事連憲章をどう実践するかの分かりやすい所信的なものを出してほしい。			
・神事協と支部の関係性を再度考え直す時期に来ている。			
・神事協基礎アンケートの生データを支部ごとに分けたものを配布する。神事協支部内での活用に留める よう配布時に注意喚起する。			
4. その他			
(1) 次回議題について			
(2) 次回の委員会日程の確認 10 月の候補日にて調整さん配信後、決定			

平成 29・30 年度 第 8 回 一般社団法人神奈川県建築士事務所協会未来に繋げる事業専門委員会 議事録			
開催日時	平成 30 年 10 月 16 日（火）	会 場	（一社）神奈川県建築士事務所協会 2 階会議室
出席者 （○）	担当副会長：×大和田 優 委 員 長：○山口 英生 副 委 員 長：○岩田 崇 委 員：×永島 優子 ×小山美智恵 ○青木 建 ×宮寺 透雄 ○近藤 敦司 ×小林 幸一 ○杉本 勝郎 ○鈴木 武昭 オブザーバー：○安藤 彰彦（賛助会会長） （株）都市計画地盤研究会 ○寺越健太郎（賛助会理事）日本 ERI（株）		
	書記： 近藤		
平成 31 年度予算方針について →未来に繋げる事業専門委員会はシンクタンク的な役割を担うため、予算の概念の無い中立的な役割を来年度以降も継続していく。			
組織改編について 今日の会議では保留。			
ホームページについて報告 制作会社との問題があり大幅な改編が出来ない状況である。一部のコンテンツ（耐震・コンシェルジュ）については個別に制作を進める方向、またホームページの暗号化もすすめている。			
クラブ活動について ・ 目的は？ →多様性が問われる時代に対応すべく、会員満足度の向上、福利厚生の実施のために実施する。 会員の親睦（他支部の会員との共通趣味を通しての交流）を深めることで退会者を減らす。 また、神事協の活動を外部にアピールすることを目的とする。 ・ 入会資格は？ →神事協会員と賛助会員。所員やその家族まで含めるかどうか要検討。 ・ 事故時の対応、責任の所在はどうするか？ →自己責任とする。（会員、非会員問わず個人の責任とする。） 仮に会員本人ではなく、所員、賛助会員だけの集まりであっても規約で制限する必要がある。 活動の内容が含まれた SNS（個人）での写真の UP には承認を取る様にする。 （どこまで制限が必要？外部へのアピールが出来なくなる恐れがある。） ・ 予算の割り当てはどうするのか？ →福利厚生費として割り当てができるのでは？最初は会議費と保険程度までとして活動費は会費として徴収してもらう。将来的に活発な活動となっていけば予算の割り当ても検討できるであろう。 ・ ベースとなる規約作成について →東京会等の既存の会則を確認して参考にひな型を作成する。 運営に関しては、部会長の集まりが必要なのではないか。その中で予算の配分や保険絡みの内容はその中で審議・決済をする形にした方がよい。 また会としてのバックアップ体制を確立する必要がある。（会員のメーリングリストの作成など） ・ 既存の活動（街歩きなど）と競合するようなクラブ活動は控えるべきでは？ →協会として認めるクラブの中に、自由な同好会的な活動があってもよいのではないだろうか？ ・ どのようなクラブ活動が求められているか？ →会員にアンケートを実施して、興味のあるクラブ活動をリストアップする。 運動系（ゴルフ・テニス・フットサル・ツーリング・釣り・ハイキングなど） 文化系（囲碁将棋・絵画・写真・音楽・グルメ・アニメなど） 2～3 名の小さな集まりができて、それが繋がって大きくなっていくのが理想。 （1 人ではなかなか参加しにくい状況になる恐れがあるのでフォローが必要。）			

・勧誘の方法について

→既存の会員には、クラブ活動の報告・勧誘会を年1回開催して勧誘周知する。

新規会員には、クラブ活動リストを渡して、どこかのクラブに加入してもらうようにしてはどうか？

アンケート実施方法について

既存のアンケートサイトを利用して、30クラブ程度の選択肢から選ぶ方法を採用
(タタキ台を山口委員長が作成)

クラブ活動プロジェクトの流れとして

ベースの規約作成（既存の会則調査してひな型をつくる）



会員アンケートの実施（回答から、クラブ活動の必要性を周知する目的もある。）



アンケートの内容をふまえて募集をかける（最低人数3名程度で応募してもらう。）



理事会承認



クラブ活動開始

会員勧誘・企画募集（広報を活用）

以上

次回日程は11月28日（水）15：00～17：00 予定

平成 29・30 年度 第 9 回 一般社団法人神奈川県建築士事務所協会未来に繋げる事業専門委員会 議事録			
開催日時	平成 30 年 11 月 28 日 (水)	会 場	(一社) 神奈川県建築士事務所協会 2 階会議室
出席者 (○)	担当副会長：○大和田 優 書記： こやま 委 員 長：○山口 英生 副 委 員 長：×岩田 崇 委 員：○永島 優子 ○小山美智恵 ○青木 建 ×宮寺 透雄 ×近藤 敦司 ×小林 幸一 ×杉本 勝郎 ○鈴木 武昭 オブザーバー：○安藤 彰彦 (賛助会会長) ㈱都市計画地盤研究会 ○寺越健太郎 (賛助会理事) 日 本 ERI ㈱ ○長友 寛昌 (川崎支部)		
1. あいさつ			
2. 各種報告 来年度、組織改編予定であるが予算は前年度同様で提出する 組織表は変遷主旨がわかるように作成することとなった			
3. 議題			
(1) 神事協基礎アンケートを踏まえた今後の組織に関する事項			
・今年度、第 2 回アンケートができなかったので来年度継続したい			
・専門委員会では独立採算制も面白い試みである			
・毎年テーマを決めて取り組んでいってはどうか			
・人口分布の資料により廃業による退会数を予測して計画を立てていける			
・アンケートの整理により確認できたポテンシャルを生かし、費用対効果や魅力を具体的に感じられる神事協にして、新入会員を増加させ退会者を減少させる			
・裏コンセプトを作成し、経営支援、事業継承を含めた体制づくりの勉強会等を始めてはどうか (新規開設者講習のように廃業者に対する取り組み等 ex. 「老前整理」、会社の終活 etc.)			
・それらを含めて相談できる仲間づくりには同好会は有効な手段である			
(2) 神事協ホームページに関する事項			
・新 HP は鈴木氏、永島氏作成中			
・トップページが変更してからのアクセス数はまだ集計していない			
(3) その他 (クラブ同好会について等)			
・グーグルで作成したアンケート案はよい			
・規約は参考事例は少ないが、必要なひな形を作成する			
・実費程度の会費制としてはどうか			
・最初は日程を決めて集合してもらい、小さなグループからのスタートとする			
・所員、賛助会の所員、事務局等誰でも参加可能、かけもちも可能の趣味を楽しむ会としたい			
・名簿と規約の管理だけを行うものとするが、部長会は必要			
・今後、文化祭のような同好会の発表の場もあるとよい (バンド等)			
・クラブ活動の意義については、新入会員獲得と退会防止のために魅力ある神事協であることが必要であり、アンケートを整理した結果、単に親睦を深めるだけではなく、仲間づくりや人とのコミュニケーションを求めていることが確認できたのでその受け皿となるためのものである			
・次回委員会時に素案、フローとタイムスケジュールを作成する (書式たたき台を鈴木氏作成)			
・6 月総会で担当する委員会ができてから発足予定			
・3 月 15 日 (金) 理事会で承認をもらう			
4. その他			
(1) 次回議題について			
(2) 次回の委員会日程の確認			
2 月 5 日 (火) 15:00～			